

「東京でISSを観察する(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

この日のISSは、東京での最大仰角は約73度、観測者とISSの最接近距離は428kmだった。仰角が60度を超えると、見た目にはほぼ天頂を飛行しているように見える。

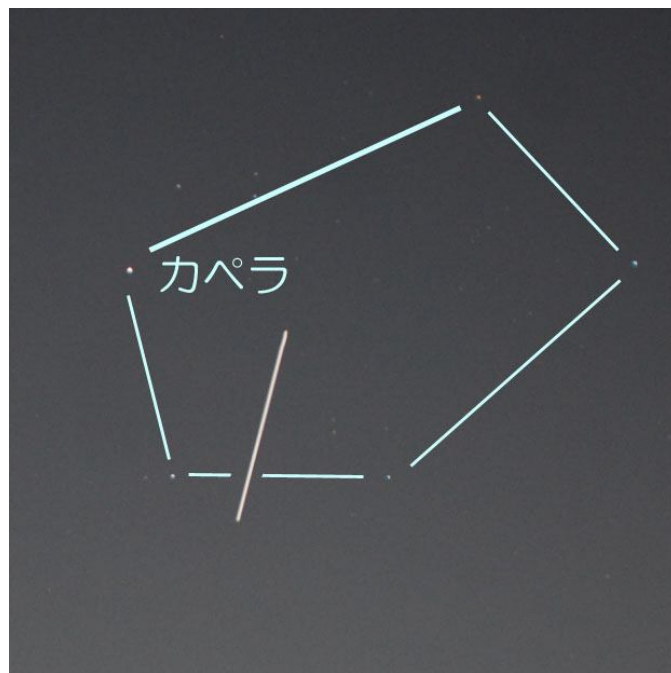


ISSとの距離が遠く、地平線に近い場合は、地上物を一緒にに入れて撮影すると良い。



天頂付近に達すると、もう地上物を入れて撮影するのは難しいので、星座や惑星と一緒に構図にする。こ

の日は、おうし座やぎょしゃ座、それにふたご座のそばを通ったので、なかなか面白い写真が撮れた。左下の写真は、「プレアデス星団」(すばる)のすぐそばを通ったISSの光軌である。



おうし座を過ぎると、今度は「ぎょしゃ座」を横切っていった。「横切る」といっても、見かけ上重なって見えたに過ぎない。ISSは、一等星のカペラよりもずっと明るく見えた。一時的に「五車星」が、一時的に「六車星」に見えた。



ISSは超望遠レンズ(1000mm以上)で撮影すると、飛行体の形まで写すことができる。これはカメラの感度を上げて、高速シャッターで連写した1枚。おぼろげながら、ISSの形(太陽光パネルなど)が見える。もっと研究して、鮮明な写真を撮ってみたい。